

フォーラムニュース Vol.40 2022 7/5

発行：フォーラム・子どもたちの未来のために実行委員会

<http://www.f-kodomotachinomirai.com/>

文責：大竹永介

私がこの一票に込める思いは？ ～ウクライナ危機下の参院選を考える～ 6・25 リレートークイベントを開催！

★間近に迫った参院選を考えるために「フォーラム・子どもたちの未来のために」ではオンライントークリレー「私がこの一票に込める思いは？～ウクライナ危機下の参院選を考える～」を企画。6月25日（土）午後2時から、79名の参加者を集めて6人の方々によるリレートークが開催されました。実行委員の一人作家の加藤純子さんによるレポートをお届けします。

~~~~~

25日午後2時過ぎにスタートしたリレートーク。進行は実行委員であり、評論家の野上暁さん。野上さんの絶妙軽妙な手捌きでスピーカーのみなさん一人一人の経歴や新刊情報などが告知され、まずは作家のあさのあつこさんの発言でリレートークの幕があきました。

あさのさん（写真右）は、今回の選挙を前にまず大切なことは、生活者として必要なこと。生活の安全保障、軍備を増やすのではなく今の生活を守ってくれる政治をと訴えました。またお住まいの岡山の人たちの暮らしの大変さや、コロナなどでどんどん追い詰められていく国民を守ってくれる人。大人たちが追い詰め



られることは子どもたちも追い詰められるということ。そこをどうにかできる人に一票を投じたいと語りました。

二番手は、元編集者で絵本研究者の澤田精一さん。（写真は左上から時計回りに元山さん、澤田さん、高田さん、野上さん）

澤田さんは都市部で生活しているせいか体験的に思うに日本の有権者は自分の思いと政治がとても縁遠いような気がする、だから自分たちのことを自分で決めるということが他人事になっていると思うと。そこから日本の明治維新以降の歴史を語り民主主義について問いかけました。今の民主主義は果たして試行錯誤した結果に生まれた民主主義

だったのか。そして民俗学の宮本常一の『忘れられた日本人』に書かれているかつての村社会における合議制の民主主義に話がつながっていきました。また三権分立のことに触れ、今は行政権が肥大しすぎている恐れを感じる。そのための一票を投じたいと話しました。

三番手は、作家の高田桂子さん。高田さんは憲法について語りました。今度の選挙で恐れるのは改憲を賛成する勢力が多数をしめてしまうのではということ。そして一文字へのこだわりから憲法の文章は変えるべきと主張した石原慎太郎の話になり、また古典的な用語は現代文には合わない。憲法は文体が古いという思いから、「アリの一穴」で一つの文章を手直しするだけでなく、大きな手直しにつながっていくという話と、9条の会に長いこと関わっているが、今回のウクライナ問題は、自分がまるでドン・キホーテにでもなったような気分がしたと。武器を持たず9条を守ることの大切さを訴えて



いきたいと語りました。

四番手は、絵本画家の垂石眞子さん（写真）。垂石さんは日本をどういう国にしていくのか、人々のリアルな気持ちが見えてこない、政治が他人事になっていると語り始めました。結婚して福生の横田基地のそばに住んでいたが、そこにはアーティストたちが集まって暮らしていたということや、ご自身の体験を通しアメリカと日本の関係、そして本当にご自身が政治と向き合うようになったのは、50歳を過ぎてからというお話。人間の鎖で基地を取り巻いたり、そこから日本の基地問題。かつてルームシェアをしていた沖縄出身の友人のことに端を発し、日本における基地問題のことなどについて考えるようになったこと。そして今問題なのは若い人たちや子どもに対しての国の教育姿勢の貧しさなどについて語りました。

五番手は、安曇野にちひろ美術館を作られ、ご自身も絵本作家であり、研究者である



松本猛さん（写真左）。

松本さんは、秘密保護法反対から「フォーラム・子どもたちの未来のために」が生まれた2013年の頃「フォーラム」の実行委員されていたその時より日本の状況はさらにひどく変わり始めていると語り始めました。特に集団的自衛権を通したことで日本は憲法を変え始めた。目に余るのは小学校の道徳教科書の教科化の問題。これは思想を小さい頃からコントロールする動きであると。それは大学のコントロール、先日の学会議の問題などにもつながっていると語りました。そしてご自身が長野で作られている「信州市民連合」の話になり、真っ向から政治の話にもっていくのではなく、教育問題や子どもの貧困を少しでもなくすため税金を使う人を決めるのが選挙と訴えるという形で若い人たちと共に活動する、その大変さについて語りました。

六番手は、ゲストスピーカー。沖縄宜野湾市出身で、一橋大学大学院生の元山仁士郎さん。元山さんは、辺野古基地新建設断念を求めるハンガーストライキを、国会前と復帰50周年記念式典前と2度にわたり行いました。元山さんは2011年、上京し、その時あった3・11原発事故を契機に、54基もの原発が日本にあることから沖縄の基地を考えるようになったと話していました。今回のウクライナ問題を見て、もし台湾有事になったら・・・その時「日本の問題」を考える視点に沖縄は入っているのか、国民の中に沖縄の人たちは入っているのかと語りました。辺野古基地建設には2・5兆円のお金がかかる。その基地建設費用で、日本の大学生・専門学生の全学費が賄えるくらいだと。元山さんは今「みんなの未来を選ぶためのチェックリスト 参院選2022」<https://choicisyours2021.jp> というサイトを作っているのでぜひ見て欲しいと訴えました。みなさんのお話が終わり、参加者からの発言として元日本ペンクラブ会長・吉岡忍さん、ちひろ美術館の中平洋子さん、作家の真鍋和子さんからご発言をいただき、実行委員の大竹永介さんから閉会が告げられました。選挙前、私たち自身もたくさんの問題提起されたりレートをくでした。

(加藤純子：かとうじゅんこ。作家。「フォーラム・子どもたちの未来のために」実行委員)

~~~~~

★カンパのお願い

「フォーラム・子どもたちの未来のために」は実行委員のボランティアによって運営されています。無料のイベントも多いため、カンパのご協力を頂けると助かります。ご協力頂ける方は以下の口座までよろしくお願い致します。

さわやか信用金庫牛込支店 普通預金 0974742
フォーラム・子どもたちの未来のために

●7月のフォーラムニュースです。6月25日に開催したばかりのオンライントークイベントの報告号。いつもでしたらもう少し時間をおいての配信になるのですが、投票日は目前。皆様のご参考になれば、との特急進行です。開催日の夜にはレポートを書きあげてくれた加藤実行委員に感謝です●6月22日に公示された今回の参院選挙ですが、この原稿を書いている27日現在、私が感じている素朴な疑問について書いておきます●まずは公示日の翌日から「期日前投票が始まりました」というニュースに接したこと。選挙運動も始まらず、選挙公報も届かないようなタイミングでの投票、とはいったい何なのでしょう？ 候補者が政策を主張することも、有権者がそれを聞き、考え判断することも必要なく投票してください、とは？●もう一つは確か公示2日後くらいに某大手新聞が発表した「選挙情勢」です。それによれば「与党は圧勝の勢い」だそうですが、そんなに早々と情勢分析と結果予測をすることに何の意味があるのでしょうか？ まるでもう決まっているのだから選挙に関心などもたなくていいよとも言われているように感じられてなりません●投票日は、まだこれからです。7月10日には私たちの意思をしっかりと示しましょう！●ではまた。(0)